

2019年度 学校評価自己評価結果公表シート
(2020年1月実施 対象:教職員32人)

認定こども園 二俣川幼稚園

2019年度(令和元年度)の幼保連携型認定こども園学校評価として、教職員自己評価を実施致しました。

今回の教職員自己評価は常勤教職員 32 名のアンケートによって実施し、教職員一同、園全体、学年、クラス、自己自身を改めて見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す良い機会となりました。

今年度の保護者の皆様のアンケート結果、ご意見を真摯に受け止め、幼保連携型認定こども園として、一層の保育教育の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

【1】教育目標

教育目標

1. 健康 じょうぶなからだ
2. 豊かな情操 やさしいところ
3. 思考と判断 かんがえてすすむ

教育方針

1. 遊びを大切にしながら年齢に合った体験を豊富にすることによって子どもらしさ(生き生きとした・失敗を恐れない・意欲的な)と年齢にふさわしい自立心を身につけること。
2. 保育者達の大きな愛情に包まれて集団生活を送ることにより、人との関わり方の基本を学ぶこと。
3. 一人一人の子どもの発達に応じたキメ細かい対応をし、その子の長所を伸ばす教育を。

【2】重点的に取り組む目標・計画

- ・認定こども園として大切な「質の向上」を図る一環として、教職員に対する研修をより活発に行う。
- ・中・長期の経営・運営を見直し、時代に即した社会のニーズに応える質の高い認定こども園の実現を図るために、外部の専門家にも参画を求め、外部向け情報提供、園の施設などの見直し、改革を進める。また保護者の利便性向上、教職員の業務負担軽減を図るために一層の業務の見直し、ITの活用を進める。

【3】 評価項目と取組み状況

学校評価教職員向けアンケートを元に作成

A:達成されている B:取組はされているが十分ではない C:取組が不十分である

	具体的確認項目	評価	取組状況・今後の取組等
教育目標・教育方針	幼保連携型として乳児(0～2才)の育ちから幼児(3～5才)の教育を一貫した教育目標や教育方針が作られているか。	B	0-2才、3-5才の保育教育目標や方針を作成しているが、連携型認定こども園として、幼保で共通認識を図れる機会を作ることに今後更に努力していきたい。
	目標や方針を共有するための取組が行われているか。	B	教育／保育目標や方針は、園長からの講話などを通じて共通認識を図っている。認定こども園として、幼稚園と保育園の職員の連携、情報交換などをすすめていく必要がある。
指導計画・教育課程	学年ごとの成長をふまえた保育カリキュラムが作られているか。	A	子どもの実態を把握し、それぞれの状況にあわせて、年間、月間のカリキュラムを立てている。
	保育カリキュラムの評価・反省を行い、日々の実践に活かし取り組んでいるか	A	職員の会議などで意見を出し合って、カリキュラムの作成、見直しを行っている。
教育環境整備	多様な活動内容や形態に応じた施設、設備や教材、教具等がそろえられているか。	B	今年度はホールに空調設備を設置し、夏でも快適に教育活動ができるようにした。引き続きニーズに合った施設、設備、教材等を検討していきたい。
教育の内容・方法	一人一人の乳児・幼児をよく観察し子どもの気持ちを受け入れ、保護者との信頼関係を構築し、興味や能力に応じて活動することにより、成長に応じたかかわりがなされているか。	A	園の最重要共通目標として全教職員が日々心がけている。保護者に対しても、親子面談のみならず、日々個別に園での様子を伝えるなどして保護者との信頼の構築に努めている。
	運動遊び、造形、音楽なども含め、総合的な活動を実施できているか	A	運動会、作品展、音楽会、おゆうぎ会などの行事に到る授業を行い、成果が出るようにしている。その他、園内での野菜づくり、もちつき、動物の世話や老人ホーム訪問など様々な活動を実施している。また高原文庫を活用して、読書が身近になるように取り組んでいる。
教職員の資質・能力向上	教職員の資質や能力向上のための取組が十分に行われているか。後輩の育成に努めているか。	B	園内外の多様な研修にも積極的に参加している。また園内研修を行うなど、日々の保育が充実するよう、意見を出し合い取り組んでいる。新しい先生も多いので引き続き園内のサポート体制を確立し、能力向上に努めたい。
安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。具体的にどのような取組を行っているか。	A	毎日の安全点検に加え、安全衛生委員会を月1回開催し問題の洗い出しや解決を図っている。保育中のけががあるので更なる目配りが必要である。
衛生管理体制の整備	衛生管理の為に体制は十分に整っているか。具体的にどのような取組を行っているか。	A	外部医療関係者を含む安全衛生委員会を月1回開催し、課題の洗い出しや解決をはかっている。インフルエンザやノロウイルスなどマニュアルを作成し、全職員ができるようにしている。

子育て支援	保護者の子育て支援は積極的に行っているか。具体的にどのような取組を行っているか。	A	りんごクラブなどの未就園児事業、もりのこ地域育児支援としてのホットスペース、ランチ交流、リズム交流会や年間を通した保護者向け講演会、子育てカウンセラーの設置、相談会など、積極的に取り組んでいる。また日々送り迎えの際にも、保護者へ声かけをし、育児不安軽減や子育ての楽しさを共有するように心がけている。
保護者、地域の人々、関係機関との関わり	保護者、地域住民が園運営に積極的に関わっているか。	A	母の会やクラス委員などが中心となって、保護者にも園でのイベント実施に積極的に関わって頂いている。
	地域の人々や関係機関との関わりを積極的に持つことができているか。	B	卒園生の課外教室や横浜自然学園（今年度で終了）、バザー、高原文庫の一般開放などを行っているが、ホームページなどを活用して地域の方々にも知ってもらえるよう広報強化に努めたい。近隣小学校との交流は積極的に行っている。
運営管理	常に保護者の利便性の向上や教職員の業務の効率化をはかることを念頭におき工夫をしているか。具体的にどのような取組を行っているか。	B	ほしのこの利用者数の大幅増など、教職員の仕事量が増えており、仕事の内容・やり方の見直しが必要だと考えている。今年度から教員のタブレット利用を開始し、職員間の情報の共有や情報のデータ化を行っている。また、保護者向けバス遅延の連絡を電話連絡からメール配信に変更した。保護者の利便性の向上、教職員の業務効率化につながるよう更にIT化を進めていきたい。
	教職員間の協力の声かけや意見や提案を言うことができているか。具体的にどのような取組を行っているか。	B	日々のミーティングや会議などで、お互い意見を出し合い、改善が必要な時は話し合うようにしている。教職員が積極的に提案ができるような自由な雰囲気を作れるように考えていきたい。
	仕事の係分担やチーム体制が適切に機能しているか。園の明確な運営・責任体制ができているか。	B	各行事や事務などは年度初めに係分担やチーム体制を作って進めている。負担が集中している時や責任体制が明確でない場合もあり、今後も改善をはかっていきたい。
	教職員が働きやすい勤務環境が作られているか。	B	少しずつ改善されているが、教職員が仕事に追われている現状がある。特に預かり保育は、年々利用者が増加しており、教職員の負担が増えている。今後一層の業務内容の見直し、効率化をはかり、教職員が余裕を持って仕事ができるようにする必要がある。
情報提供	保護者や関係者に対して十分かつ効果的な情報提供をおこなっているか。外部向けに広く周知するための取組は行われているか。	A	今年度は外部専門家を入れてホームページを刷新、見やすく親しみやすいページにした。入園児募集、未就園児クラスや子育て支援講演会などに役立てたい。また保護者向け案内もメール配信、ホームページの一層の活用を進めていきたい。